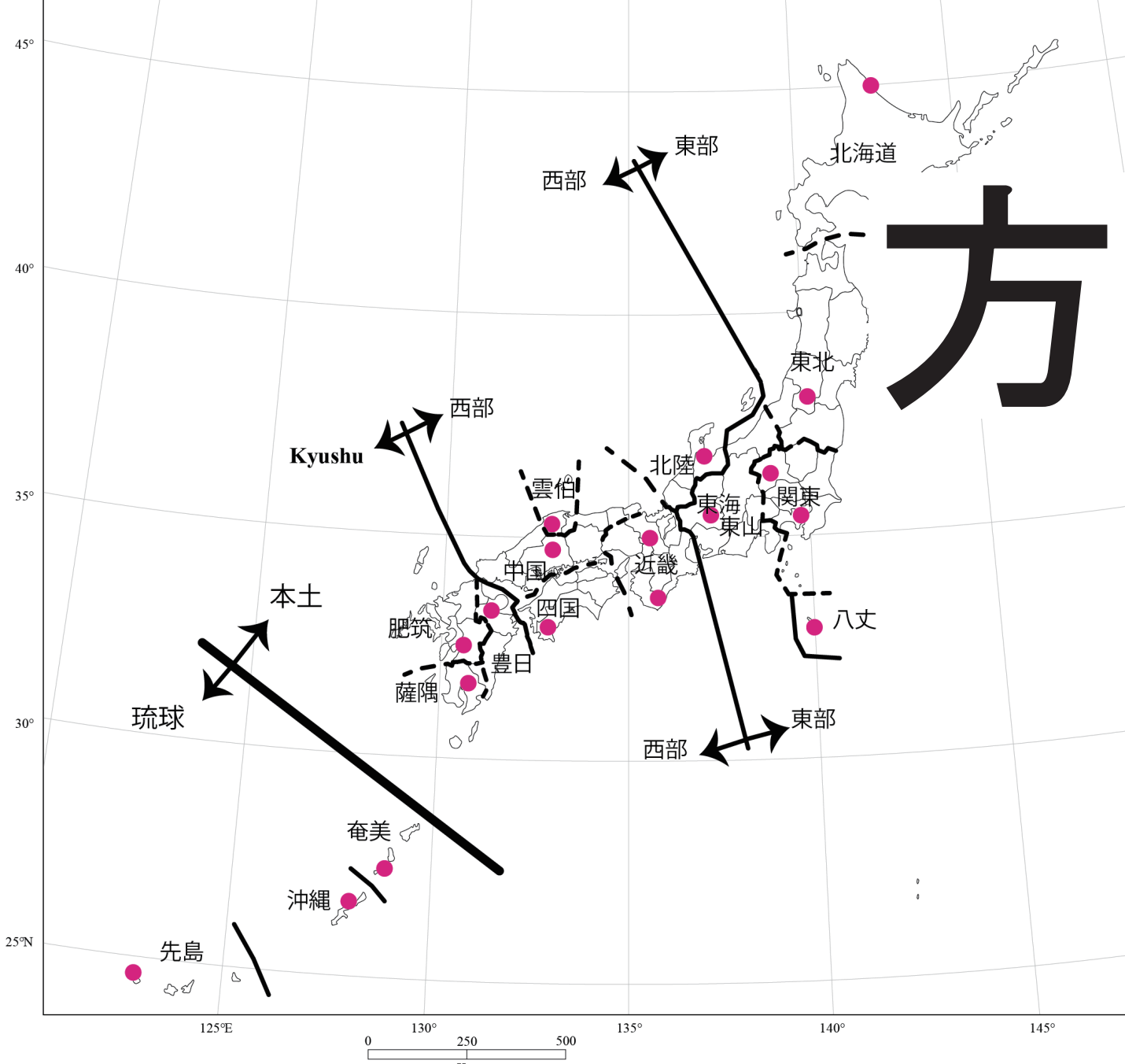


方言における言語的距離と空間距離

大西拓一郎

国立国語研究所 言語変化研究領域



1. はじめに

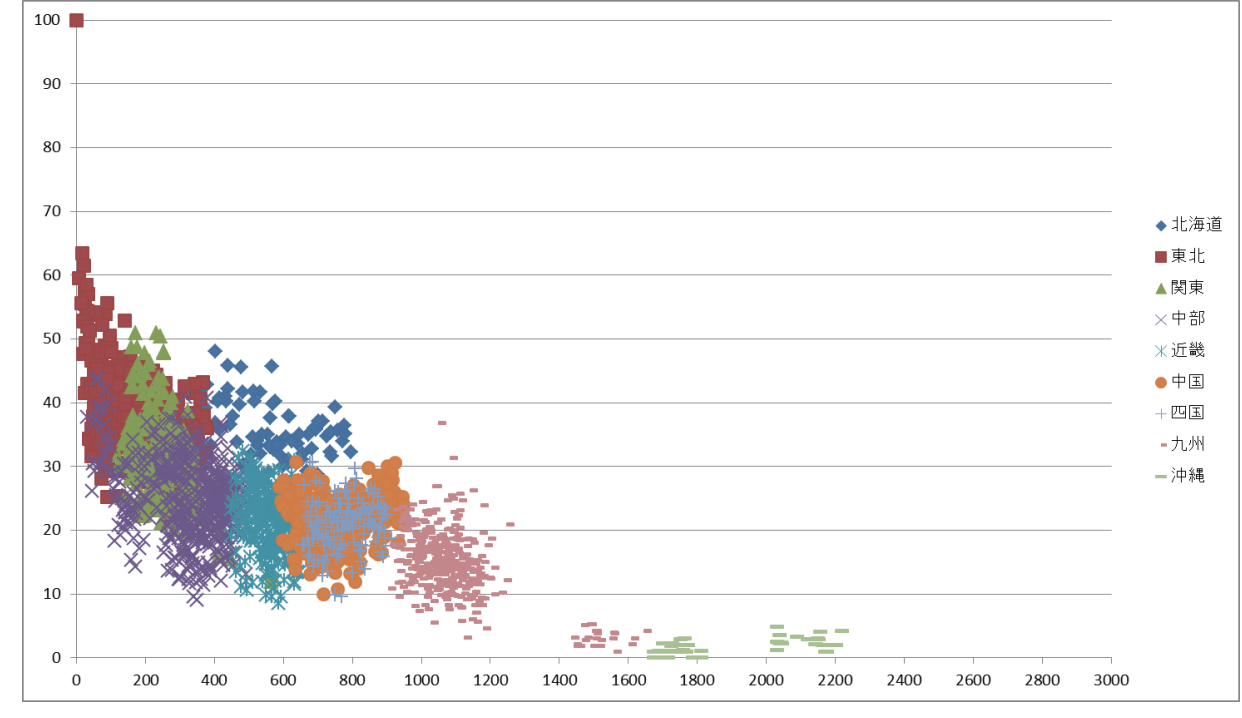
- 方言間の類似度（言語的距離）と空間的距離の関係を①広域の場合、②狭域の場合、③言語分野の別の観点から明らかにする。
- 多くは「近いところは似ていて、遠いところは違っている」（NS&FD）主系列の状態にあるが、それに合わない特異類の地域がある。
- 狭域では線状（linear）に現れ、傾きは地域間の関係に依る。
- 言語の通用性において文法が優先され、語彙>文法（広域）に対し、文法>語彙（狭域）の類似度の異なりが現れる。

2. 方法・資料

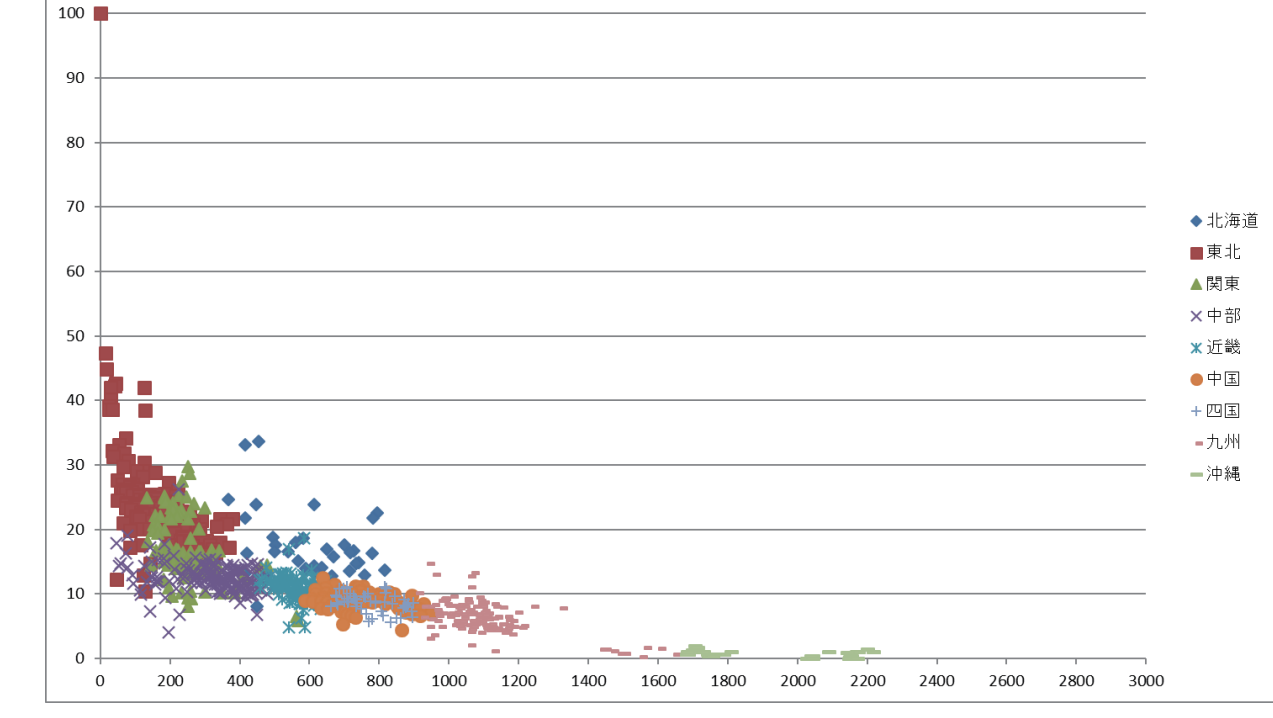
- 参照地点（比較元地点）を設定し、地点間の一致データが参照地点の有効データ件数の中で占める割合を言語的距離とする。
- 言語的類似度 = 一致データ件数 / 有効データ件数 × 100 (%)
 - ※有効データ：共通調査項目に限定、「その他」「NR」等を除外
- 広域：『日本語地図』（LAJ）126枚の語彙項目、『方言文法全国地図』（GAJ）350枚の文法項目。参照地点は、LAJ・GAJに共通する各方言区画+京都・東京1地点ずつの18地点。
- 狭域：『上伊那の方言』（馬瀬良雄 1980）110枚の語彙項目と17枚の文法（音韻）項目。参照地点は9地点。
- 距離：国土地理院のサイトを用いて算出した大圏距離。

3. 主系列

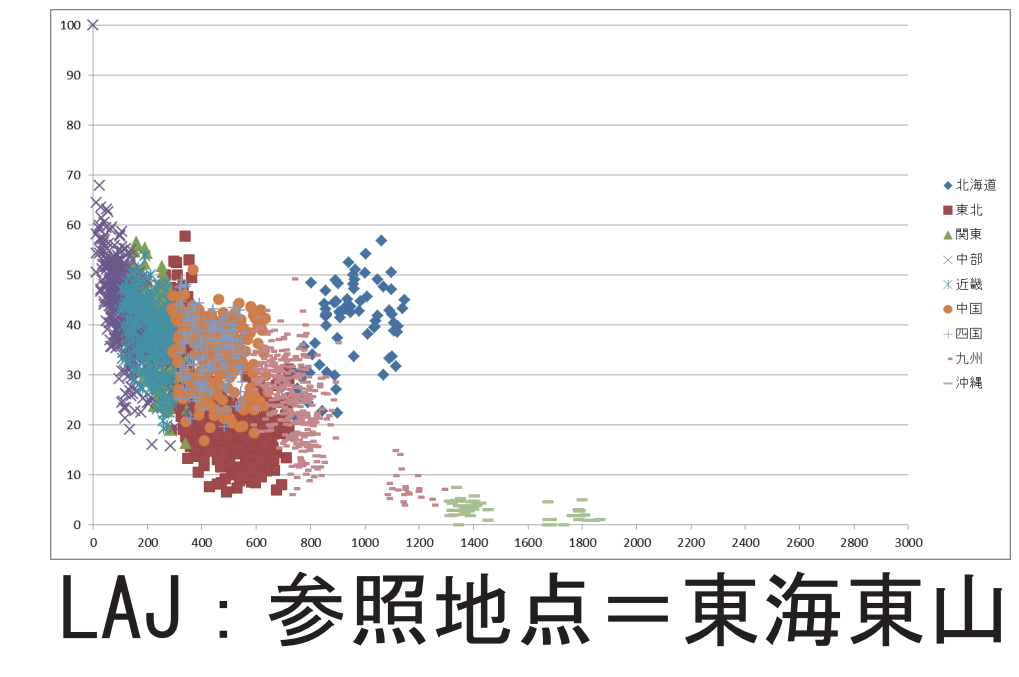
「空間距離が短いと言語的類似度は高く、長いと低い＝右下がり」（NS&FD）がほとんどの参照地点で確認される。→主系列



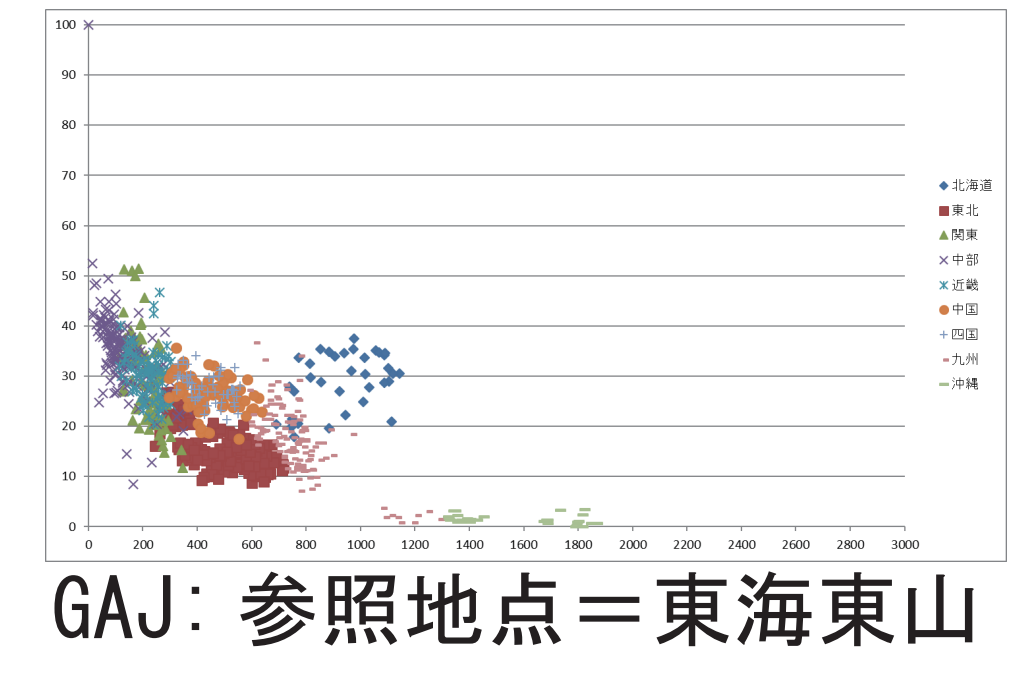
LAJ：参照地点＝東北



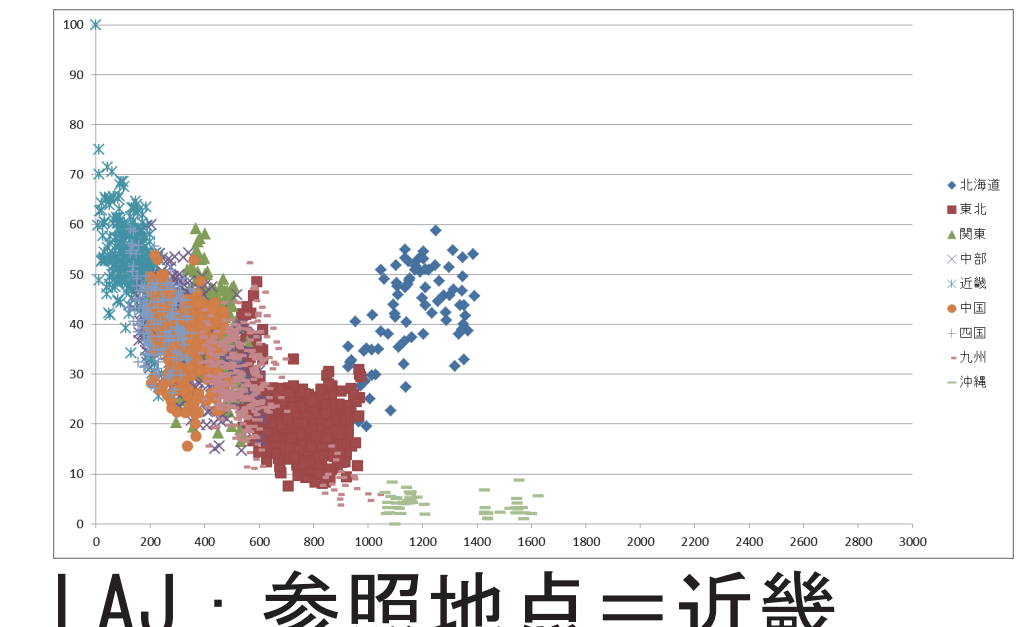
GAJ：参照地点＝東北



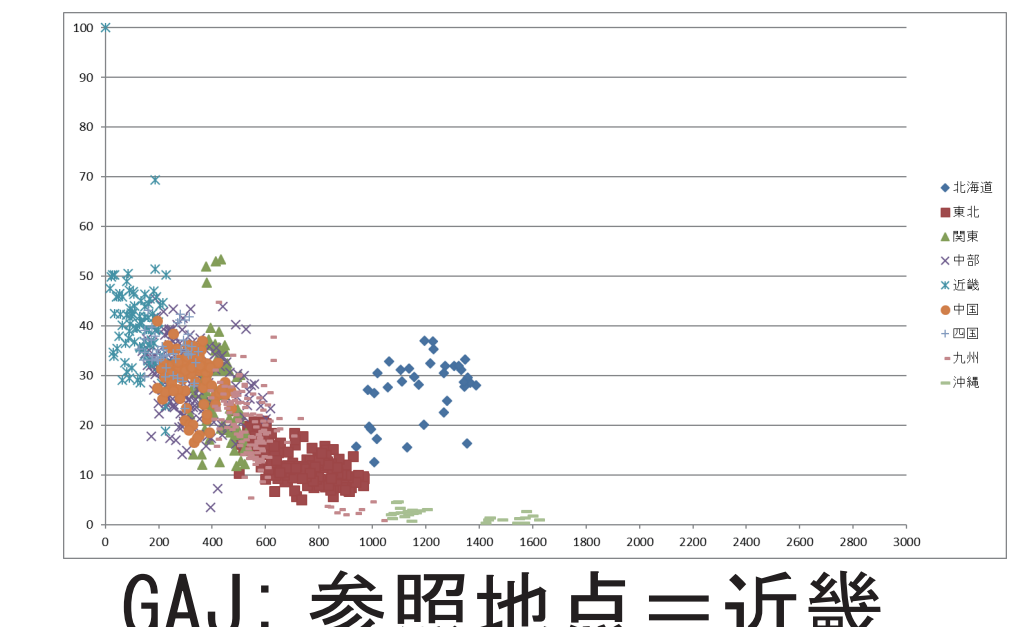
LAJ：参照地点＝東海東山



GAJ：参照地点＝東海東山



LAJ：参照地点＝近畿



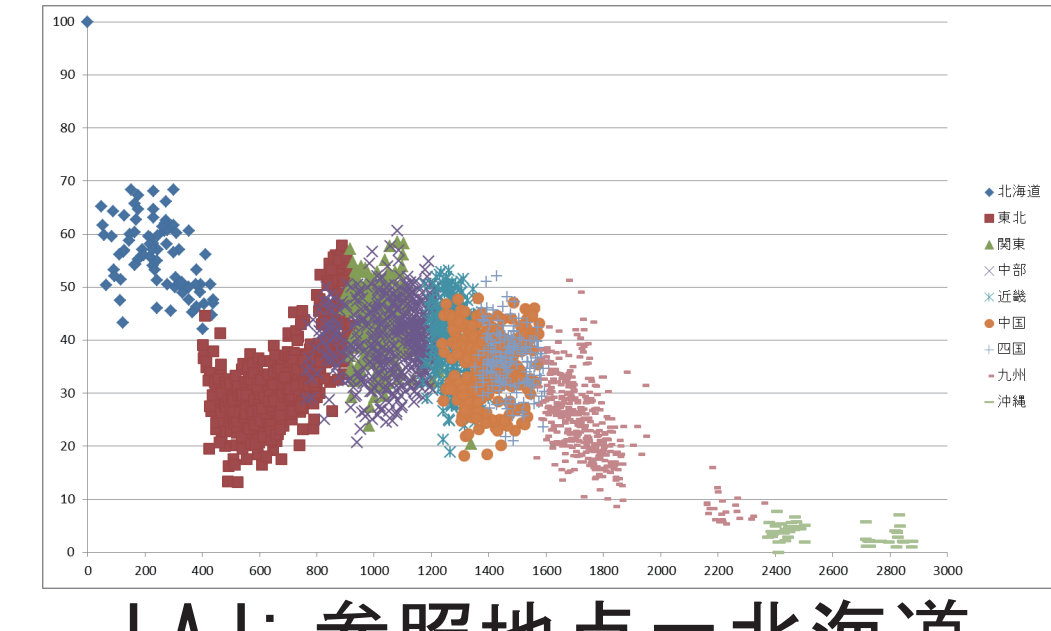
GAJ：参照地点＝近畿

北海道が特異な類似度（距離にかかわらず類似度が高いためコブ状）を示す。

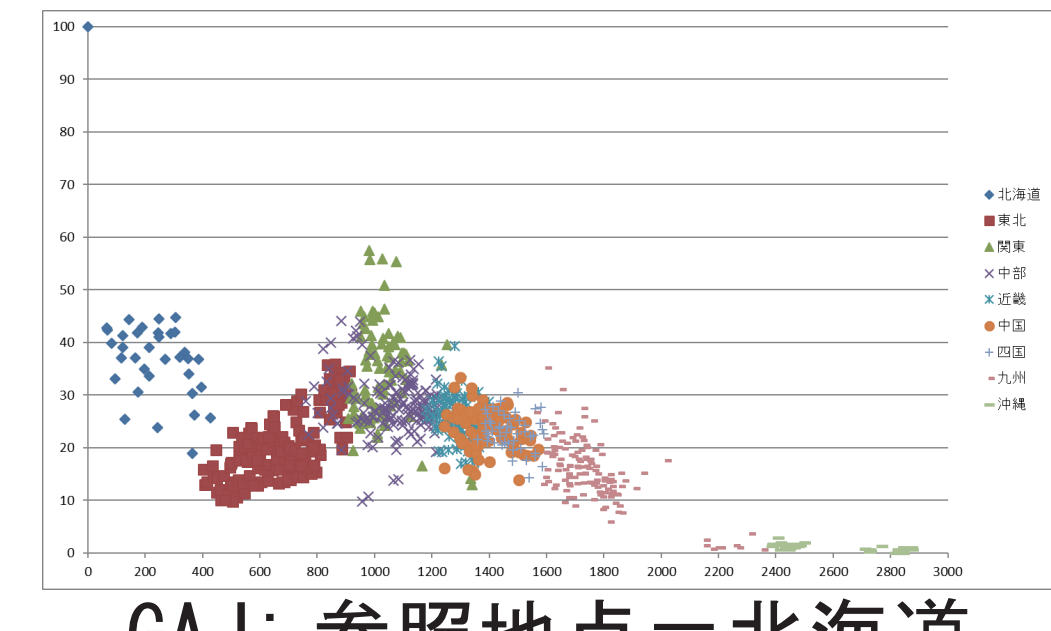
4. 特異類

4.1 北海道

- 参照地点を北海道にすると、特異性が明確になる。関東を中心とした地域との類似度が高いグラフ形状を示す。
- 関東だけではなく各地と似るのは、移民による方言の形成が効いている。
- 参照地点を東北に設定した場合にコブが目立たないのは、関東と北海道の間に位置するためと考えられる。



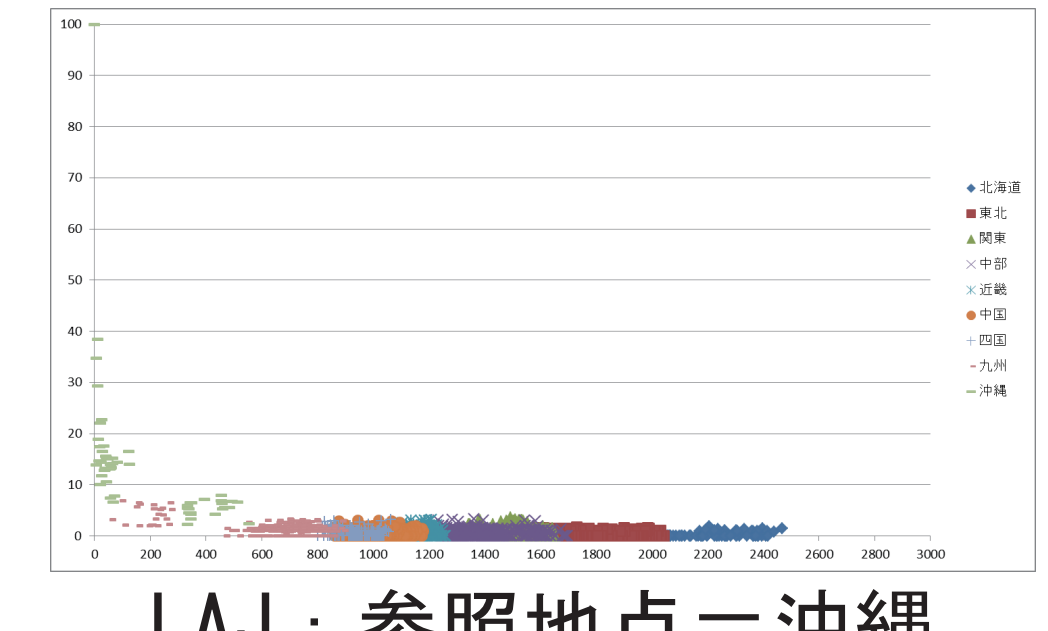
LAJ：参照地点＝北海道



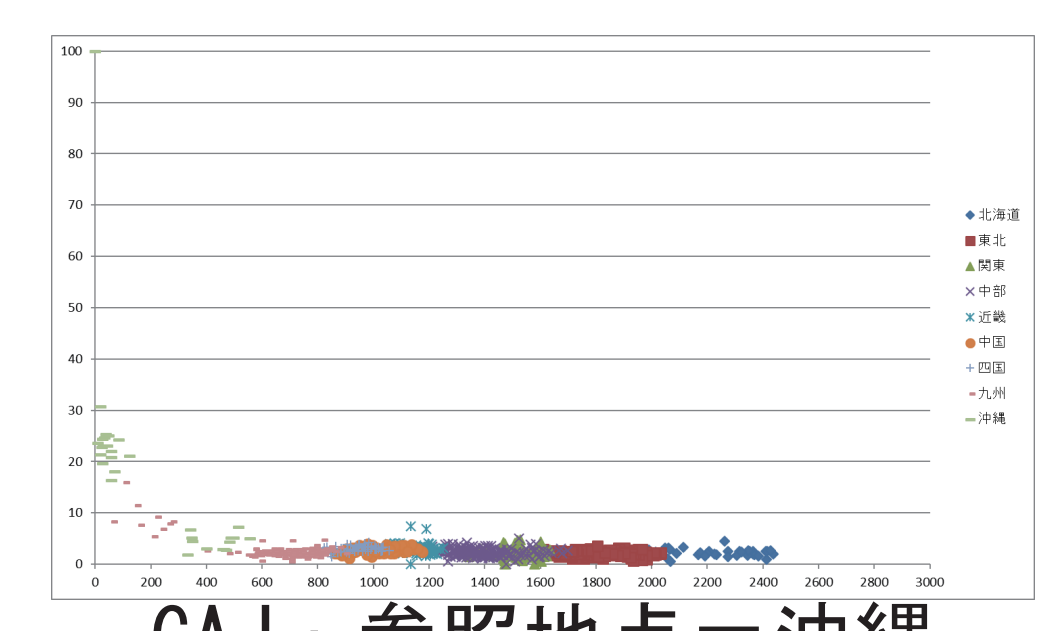
GAJ：参照地点＝北海道

4.2 琉球

- 琉球が参照地点の場合も特異なグラフを示す。
- おおむね 500km 圏程度までは右下がりの主系列的形状が見られるが、その先は類似度が低いままになる。
- 言語圏・方言圏の区分が 500km の空間距離にあると考えられる。
- 一方、琉球方言圏内では主系列関係が存在していると見られる。



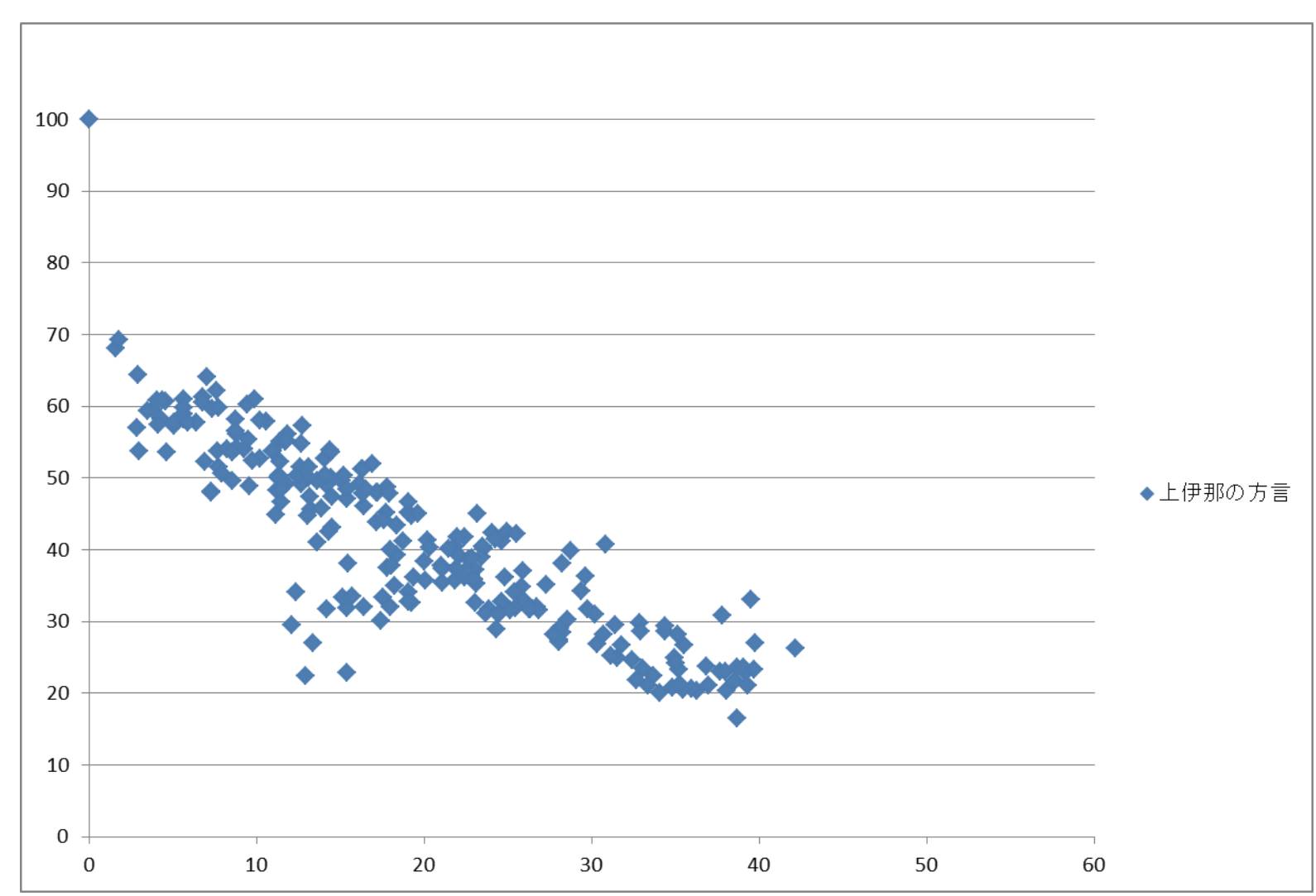
LAJ：参照地点＝沖縄



GAJ：参照地点＝沖縄

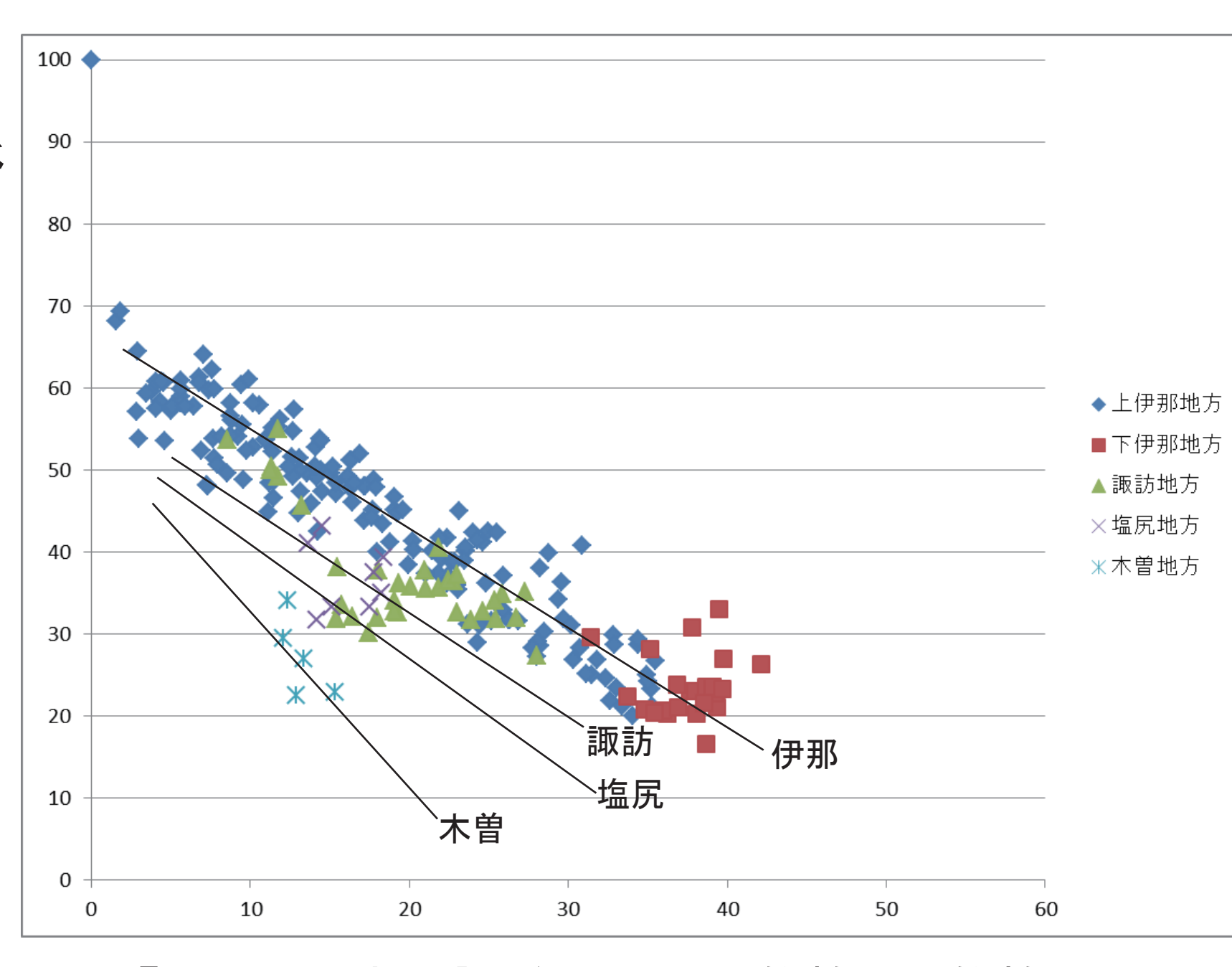
5. 広域と狭域

- 『上伊那の方言』に基づく狭域のグラフも右下がり（NS&FD）の主系列を示す。
- LAJ や GAJ による広域のグラフが類似度の大きな幅（大振幅形状）を示すのに対し、狭域のグラフは揺れ幅が小さく、線状（linear）に現れる。



『上伊那の方言』：参照地点＝箕輪町中箕輪

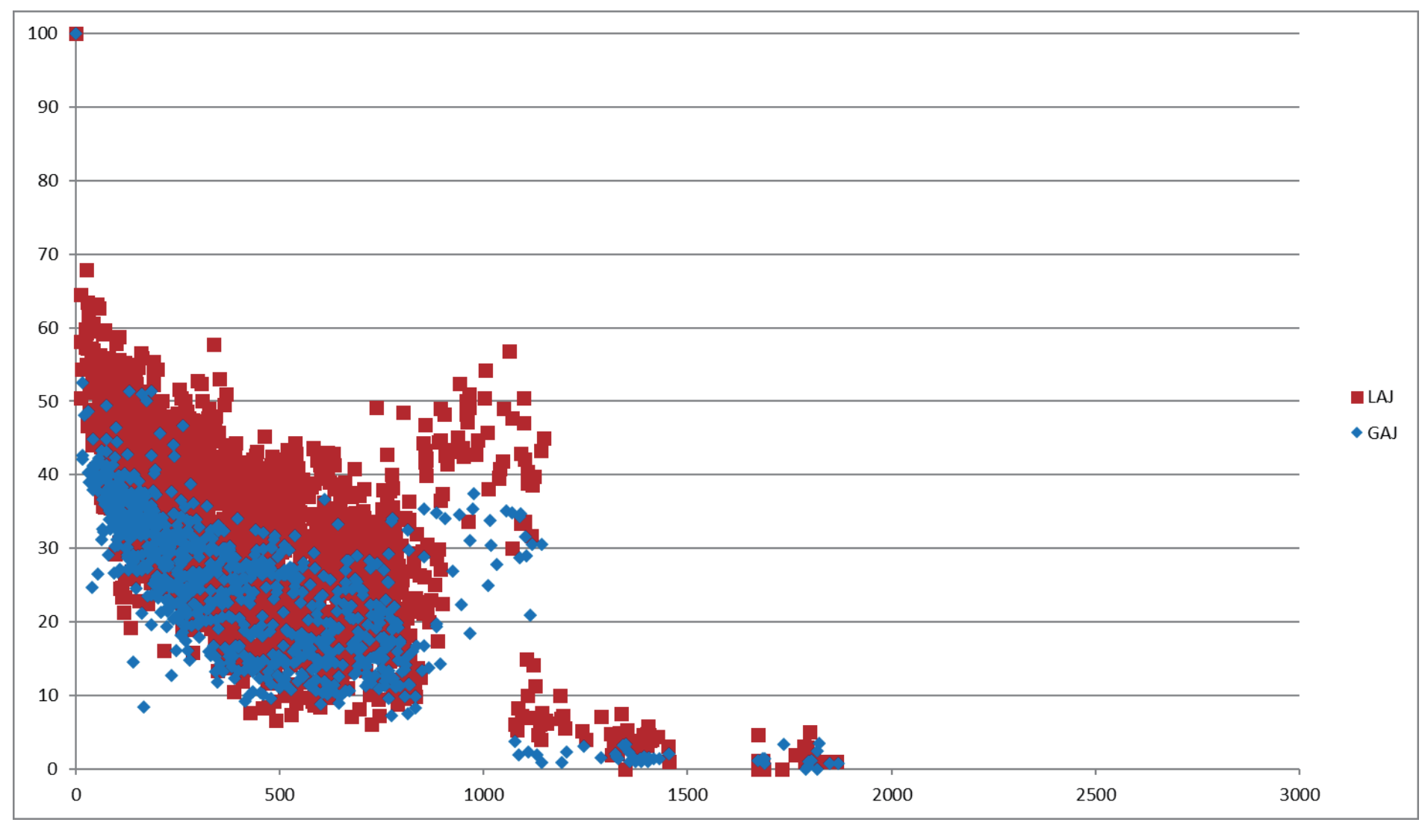
- 比較先を狭域内での地域区分にあてはめると、さらに線状が明確になる。
- 同じ地域区分の地点は、同等の傾きの線上に現れる。
- 参照地点と同じ地域区分の地点は傾きが緩やかであり、異なる地域区分の地点は傾きが急である。
- 広域が示す大きな幅は地域区分が複合したものだろう。



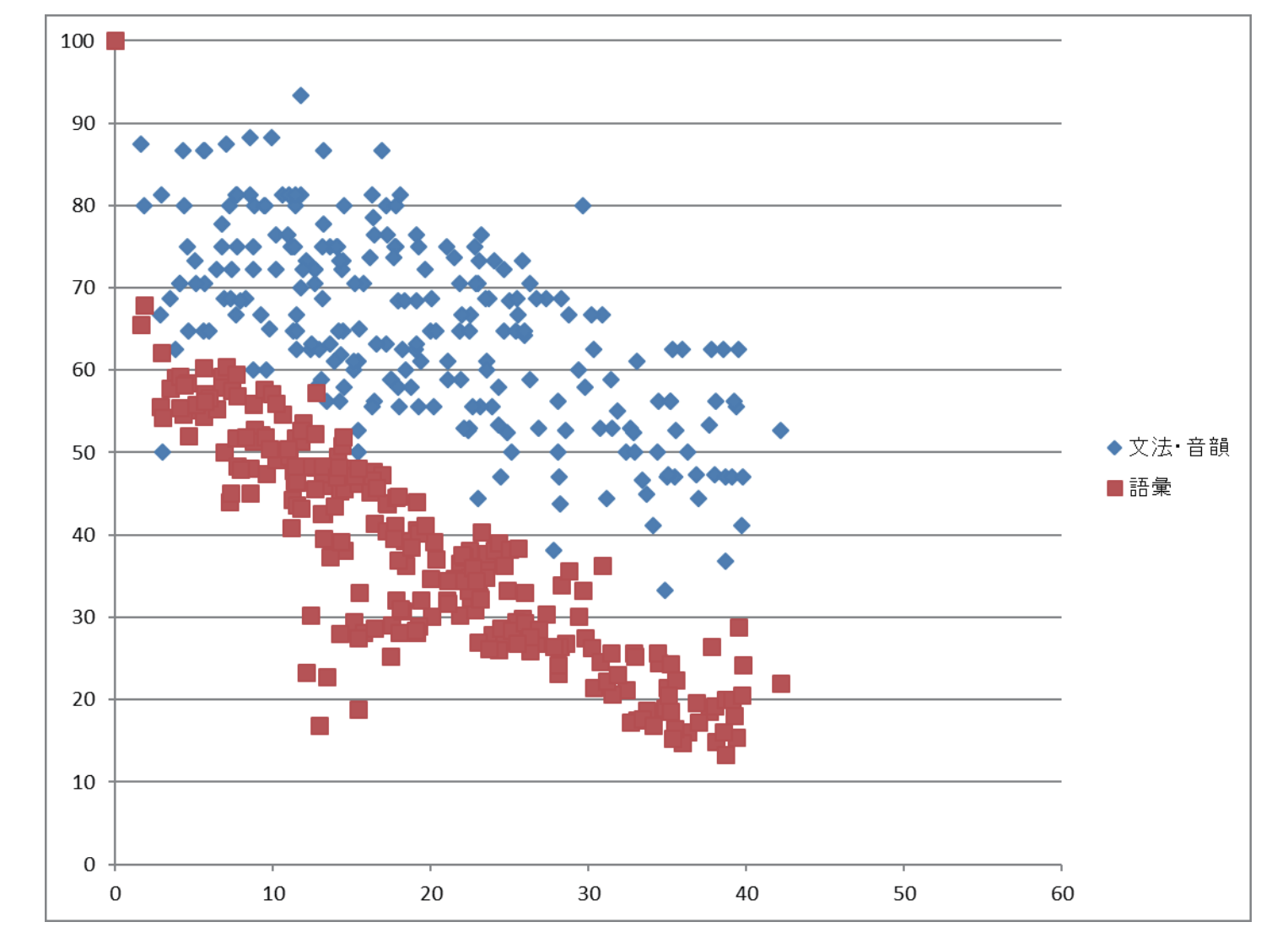
『上伊那の方言』：参照地点＝箕輪町中箕輪

6. 語彙と文法

- 広域においては、文法の方が類似度が低く、揺れ幅が狭い。
- 狭域においては、文法の方が類似度が高い。
- 言語の通用性を支える文法は、現実のコミュニケーションが行われる狭域において類似度が高く共通する必要がある。一方、広域ではその必然性は高くない。
- 距離が同等のところは地域が近いことが多いため、文法の異なりは小さく、類似度の幅も狭い。



LAJ・GAJ：参照地点＝東海東山



『上伊那の方言』：参照地点＝箕輪町中箕輪